油井の豊年踊り

【所　在　地】大島郡瀬戸内町油井（油井豊年踊り保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 58 年４月 13 日

旧暦８月 15 日，集落の中心にある祭場ミヤーで，さまざまな行事や芸能が行われる。

まず，集落の青壮年が各戸から集めたワラで縄をつくる。行事はまずこの縄を使っての「綱引き」から行われる。集落の人びとは東西に分かれて綱を引くが，引き合うのではなく，ただ左右へ移動するのみである。ころ合いを見て異様な仮面のシシが現われ綱を切る。青年たちがこれを結ぶと再び切る。

これを３度くり返したあと，綱の半分を使って土俵をつくる。

次いで，青年たちによる「フリダシ」がある。 褌 をしめた青年たちの土俵入りである。次に「前相撲」があり，「土俵払い」がある。紙の面をつけ，野良着姿の男性が鎌で草を切る仕草の踊りである。次に「稲刈り」がある。「アブシ（畦）クェロー」という歌に合せて，稲を刈り，束ねてオコ（棒）に刺して担いで退場する。終ると土俵の脇で女性たちによる「稲すり」がある。美しく着飾った娘を摺臼に見立て，赤い紐をつけて両側から左右交互に引いて稲を摺るのである。土俵には次に鉢巻をした裸の青年たちによる「米つき」がある。土俵を臼に見立て，ヒジを杵として，片膝ついてヒジで土俵を突く，終ると女性たちが握り飯をバラ（平ざる）に入れて頭上に捧げて入場し青年たちに献ずる。次に白い長いヒゲをつけた老翁が従者を従えて現われ，土俵を見廻る。

これを「観音翁の土俵見舞」という。このあと「玉露カナ」という芸能があって最後は全員が若者に担がれた焼酎ガメを先頭に入場し「八月踊り」が踊られる。

この行事は，綱引きや相撲などの十五夜行事と，稲の収穫を模した収穫儀礼，それに余興的な玉露カナのような芸能，及び八月踊りが複合したもので，一大野外劇を構成している。「諸鈍芝居」や「与論の十五夜踊り」とも共通する沖縄奄美文化圏の豊年祭の古い形をよく保っている。